

F委員

【意見欄】

第1期一宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略(H27～R3)の効果検証ですが、正直、このように多くの事業が考えられ、進められていたとはわかりませんでした。自分の勉強不足、関心のなさによるところ大ではありますが、総合戦略の名の下にこれだけの事業が展開されようとしていたこと、果たして住民のどれだけの人が理解していたでしょうか。そこをまず検証してほしかった。

第1期一宮町総合戦略評価書個表1～5において、一宮版サーフォノミクス関連の事業と効果が検証されています。この検証はこの事業計画を推進する側だけでの検証に終わっています。そのため定性評価は甘すぎる評価となっているように思えます。定量評価も同様です。

それは街なかの表情、雰囲気、活気のある無し、などを俯瞰すればいちばんよくわかります。平成27年と現在を街なかの変化で見るとよくわかります。何も変わっていません。変化がゼロというわけではなく、部分的には変化も見られるでしょう。しかしそれは第1期一宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略が描いていたものとは別物と思います。

ここまでいえばおわかりと思うのですが、結論は、第1期一宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略において一宮版サーフォノミクスは失敗したということです。それを認めないことにはこの町は次のステップを踏むことができないではありませんか。サーフィンによる「まちおこしの果実」が全町、全住民に行き渡り、一宮町が活気にあふれた街になるという戦略、これが一宮版サーフォノミクスの基本コンセプトであったと思います。しかし、街は活性化していません。それなのに第2期でも再び同じことを繰り返そうとしているようにしか見えません。

私は一宮版サーフォノミクスは、サーフィンによる「まちおこしの果実」を全町、全住民に行き渡らせるどころか、住民間、地域間に大きな溝をもたらしてしまったのではないかと危惧しています。サーフィンをする人とそうでない人。サーファーが多く住む地域と古くからの住民が住む地域。自分も含めてこの両者は、現状ではなかなか混じり合うことができません。そういうチャンスもありません。第1期の反省を踏まえて第2期の総合戦略はこの溝を取り除くことに全力を注ぐものにしていただきたい。

先日こういう一文を見つけました。『第1期総合戦略において、一宮町中心市街地調査計画書を策定し、その中に、町民が自由に利用できるコミュニティスペースなどをコンセプトにした旧一宮保育所リノベーションなどがありました。事業実施には至りませんでした。今後のまちづくりの中で、地域の人々のニーズに合った交流拠点など、空き公共施設、空き店舗などの利活用を含めて考えていきたいと思います。』そしてこれこそ片手落ちの一宮版サーフォノミクスを救う決め手であるのに、なぜ事業実施に至らなかったのか、理由はわかりません。旧一宮保育所然り、今、町には利用されていない施設、利用が中途半端である施設など、一言でいうと「もったいない」公共施設が多く存在します。これらを利活用すれば、SUZUMINEのように多くの予算を注ぎ込まなくても、今のこの町の課題を解決することはそう難しいことではありません。

今住んでいる人がいい町だと思えるまちづくり、こういう考え方で第2期総合戦略を企画し、住民参加を呼び掛ければ、前回の総合計画と同様の住民パワーが結集できるのではないのでしょうか。その前に、この町が5年後、10年後、こうなるんだという行政が思い描くイメージ、町のあるべき姿を住民に示していただきたいです。これが全てです。